

広島県政白書ニュース

2017年6月1日 発行NO.6

広島県政白書作成実行委員会
事務局: 広島自治体問題研究所
<http://kyodo-support.com/jitiken/> 広島自治体問題で検索を

県政白書・県政概括評価懇談会報告

5月15日広島ロードビル大会議室で、県政白書執筆に関係する19名が参加して、湯崎県政8年間を総括するとして、11名から報告がありました。

湯崎県政をどう見るかについて、前回の県政白書で述べられた、新自由主義的な、イノベーションを掲げる県政が続いているということ、教育で、子どもたちの健全な発達を保障する教育ではなく、産業のための人材育成、グローバルに対応出来る子どもたちをつくる、教育の自身そのものがそういったものになっている。と指摘されました。

湯崎知事そのものは4年前と姿勢的には変わっていない、ただ、核兵器廃絶の署名などには、今回署名したり姿勢があったり、国と違ったヒロシマを目指している変化があります。

広島県政白書作成活動経過

- 1月24日 第1回実行委員会
- 2月21日 実行委員会団体訪問・協力要請
- 3月5日 研究者懇談会
- 3月15日 広島県出前講座「ひろしま未来チャレンジビジョン」改訂版
- 3月24日 第2回実行委員会分担の確認
- 4月12日 県政研究会
- 4月16日 備北会議 意見交換会
- 5月15日 県政概括評価懇談会

I. ひろしまの産業・就業と貧困への問題提起

統計資料を使って次のような項目について報告がありました。

1. 広島県民経済計算結果
2. 産業構造と就業構造
3. 毎月勤労統計 賃金の推移
4. 広島県就業構造基本調査
5. 有効求人倍率の実態
6. 上記以外の経済指標

の分析から、県民の経済の実態は、産業構造が、輸出産業に大きく依存している中で、全国と比べると、求人倍率は高くなっているが、その質はアベノミクスの言う成長発展とは乖離し、南北格差がみられることを明らかにしています。

II. 女性の要求、子どもの貧困からみた湯崎県政

湯崎知事はよくばりライフということが、これは決してよくばりとかいうことではなく、あたりまえのことを願っているのであって、これを実現していくのが、行政の仕事だと、県民に訴えていきたい。

女性の声が県政に届いていない、女性差別撤廃条約から見た県政の施策の問題点を指摘したい。働き方などの改善を広げる施策は総合的にとらえることが必要です。

III. 生活保護・生活福祉資金貸付

・県営住宅

生活保護等行政の上から広島県の役割としての、市町等への指導権限を発揮していくことを提起したい。県営住宅の指定管理者制度の改善を訴えたい。

IV. 教育の再生

安倍政権の「教育再生」などをめぐる状況と広島県の教育をめぐる実態と教職員・子どもの現状を明らかにし、教育が子どもの人格形成を目的とするものであるのだがこの間、教育が人材育成となっている実態がある。子どもの教育を受ける権利として、奨学金の支援を行っている中から、子どもたちの教育を受ける願いを大切にすることを出していきたい。

V. 3つの医療改革(改悪)と地域医療再生に向けて

安倍政治が進める医療費削減一体改革を、広島県ではどのように実施されているかその問題点を明らかにするため、適正化計画、医療構想、国民健康保険の3分野の関連を明らかにしていく。地域課題を挙げそれぞれに合った提言を挙げていきたい。

VI. 広島県の指定管理制度の矛盾と県民サービス

指定管理者制度について、その狙いと、広島県内の実態の問題点を、具体的に施設管理実態を明らかにし、県民の公共施設としての管理のあり方を問う。

VII. 中小企業振興条例の必要性

企業数で99%、雇用者の70%を占める中小企業・中小業者は地域経済の主役です。「中小企業振興条例」が、都道府県レベルでは41道府県で条例が制定されています。大切なことは、「市民参加」です。県レベルでは、県民参加の検討と検証を重ねる場を設けて、県民とともに地域振興をすすめることです。地域と住民の暮らしに密着し、地域経済と文化や教育、風土を育てる中小業者の育成・発展にどれだけ県行政と県民が共同で取り組めるかが、いま求められているのです。

*. 今後の大筋の日程案は

広島県知事選挙が11月にあり、それに向けての逆算方式で立ててみました。

- 6月 執筆者確定・執筆者会議
- 6月 原稿締切・調整 校正
- 8月初旬 印刷会社へ入稿
- 8月末 発刊 ガンバロウ
- 10月 広島自治体学校で報告
- 11月 広島県知事選挙

執筆者会議

日時: 6月13日(火)

18:30~20:30

場所: 広島県商工団体連合会

課題: 1. 広島県政白書のねらいと、方向性について

2. 県政白書構成について

3. 白書今後の日程調整